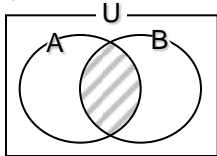


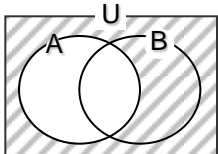
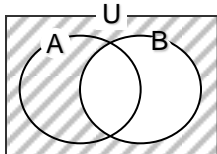
問1	(1) $n(A) = 22$ $n(B) = 18$	(2) $n(\bar{A}) = 30 - 22 = 8$ $n(\bar{B}) = 30 - 18 = 12$
----	-----------------------------	--

問2

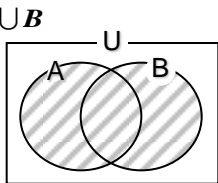
解答例:  $A \cap B$



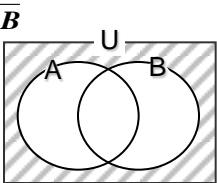
(2)

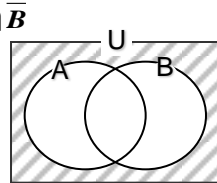
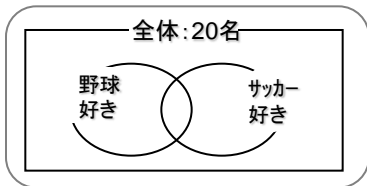
(1)



(3)



(4)

(3)と(4)が同じ答え  
→ ド・モルガンの法則  $\overline{A \cup B} = \bar{A} \cap \bar{B}$

問3

(1) 学生の数: 20, 野球が好きな学生の数: 12,  $20 - 12 = 8$  (人)

(2)  $11 - 8 = 3$  (人)  
サッカーが好きな学生の数: 11, どちらも好きな学生の数: 8

(3) 野球が好きな学生の集合をA、サッカーが好きな学生の集合をBとする。  
野球またはサッカーが好きな学生 ( $A \cup B$ ) は、

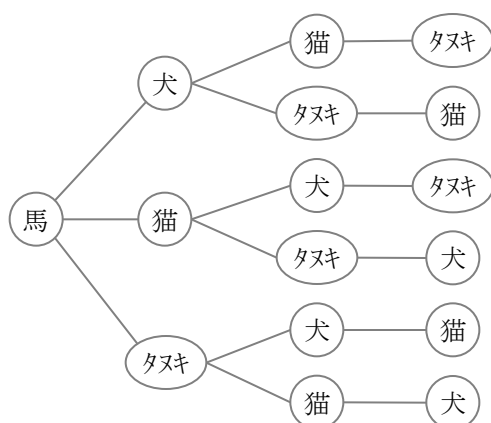
$$n(A \cup B) = n(A) + n(B) - n(A \cap B) = 12 + 11 - 8 = 15$$

野球またはサッカーが好きな人数: 15  
野球好きの人数: 12  
サッカー好きの人数: 11  
どちらも好きな人数: 8

答 15 人

問4

樹形図



6 通り

問5	積の法則より、 $5 \times 7 = 35$ (通り)
----	--------------------------------

問6	(1)	<p>出た目の和が5になる場合は、以下の通り。</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td>サイコロ(大)の目</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>サイコロ(小)の目</td> <td>4</td> <td>3</td> <td>2</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>出た目の和</td> <td>5</td> <td>5</td> <td>5</td> <td>5</td> </tr> </table> <p style="text-align: right;">よって全部で、<b>4通り</b>。</p>	サイコロ(大)の目	1	2	3	4	サイコロ(小)の目	4	3	2	1	出た目の和	5	5	5	5
	サイコロ(大)の目	1	2	3	4												
サイコロ(小)の目	4	3	2	1													
出た目の和	5	5	5	5													
(2)	<p>出た目の和が偶数になる場合は、以下の2つがある。</p> <p>① サイコロ(大)とサイコロ(小)どちらも偶数の目がでる。 ← <math>(\text{偶数}) + (\text{偶数}) = (\text{偶数})</math> より</p> <p style="text-align: center;">(大) (小)</p> <p>どちらも偶数の目は3つ(●●●)があるので、積の法則より、<math>3 \times 3 = 9</math> (通り)</p> <p>② サイコロ(大)とサイコロ(小)どちらも奇数の目がでる。 ← <math>(\text{奇数}) + (\text{奇数}) = (\text{偶数})</math> より</p> <p style="text-align: center;">(大) (小)</p> <p>どちらも奇数の目は3つ(●●●)があるので、積の法則より、<math>3 \times 3 = 9</math> (通り)</p> <p>よって、①と②が同時に起こることはないので、和の法則より、<math>9 + 9 = 18</math> (通り)</p>																

### Challenge 問題

兄弟、姉妹ともいる人を  $x$  人、ひとりっこの人を  $y$  人とおく。

$$(\text{全員の人数}) = (\text{兄弟のいる人数}) + (\text{姉妹のいる人数}) + (\text{ひとりっこの人数}) - (\text{兄弟、姉妹ともいる人数})$$

より、それぞれを代入すると、 $40 = 31 + 27 + y - x$

$$\text{この式を変形すると、} 40 = 31 + 27 + y - x \Rightarrow x = 58 + y - 40 \Rightarrow x = 18 + y$$

$$(\text{兄弟、姉妹ともいる人数}) = 18 + (\text{ひとりっこの人数})$$

→ つまり、兄弟、姉妹ともにいる人数は、ひとりっこの人数に18人足した数になる。

よって、兄弟、姉妹ともにいる人数は、最低でも **18人** となる。 ←  $(\text{ひとりっこの人数が} 0 \text{人の時})$

逆に、ひとりっこの人数は、兄弟、姉妹ともにいる人数より18人引いた数になる。

兄弟、姉妹ともいる人の人数は、多くても 27人 なので、 ←  $(\text{姉妹のいる人全員が兄弟もいる時})$

ひとりっこの数は多くても  $27 - 18 = 9$  人 となる。

$$(\text{ひとりっこの数が最も多いとき}) = (\text{兄弟、姉妹ともいる人数が最も多いとき}) - 18$$

また、兄弟だけいる人数は、兄弟のいる人数(31人)から、兄弟、姉妹ともいる人数を引いた数になる。

兄弟、姉妹ともいる人数は、求めたように、最低でも18人、多くても27人である。よって、兄弟だけいる人は、

少なくとも  $31 - 27 = 4$  人、 ←  $(\text{兄弟だけの人数が最も少ないとき}) = 31 - (\text{兄弟、姉妹ともいる人数が最も多いとき})$

多くても  $31 - 18 = 13$  人 である。 ←  $(\text{兄弟だけの人数が最も多いとき}) = 31 - (\text{兄弟、姉妹ともいる人数が最も少ないとき})$

(A) 18人 (B) 9人 (C) 4人 (D) 13人